

## 研究拠点形成事業 平成24年度 実施計画書

### B. アジア・アフリカ学術基盤形成型

#### 1. 拠点機関

|               |               |
|---------------|---------------|
| 日本側拠点機関：      | 東京大学大学院経済学研究科 |
| (大韓民国) 拠点機関：  | ソウル国立大学校      |
| (フィリピン) 拠点機関： | フィリピン大学       |
| (タイ) 拠点機関：    | タマサート大学       |

#### 2. 研究交流課題名

(和文)： 東アジア地域の金融研究・若手エコノミスト育成の拠点形成  
(交流分野： 経済学 )

(英文)： Research on Financial Economics and Promotion of Young Economists in East Asia  
(交流分野： Economics )

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.cirje.e.u-tokyo.ac.jp/keisei/keisei2012>

#### 3. 採用期間

平成24年4月1日 ～ 平成27年3月31日  
( 1 年度目)

#### 4. 実施体制

##### 日本側実施組織

拠点機関：東京大学大学院経済学研究科

実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：経済学研究科・研究科長・国友直人

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：経済学研究科・教授・福田慎一

協力機関：該当なし

事務組織：東京大学大学院経済学研究科等事務部

##### 相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：大韓民国

拠点機関：(英文) Seoul National University

(和文) ソウル国立大学校

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：Department of Economics・Professor・Chulhee

LEE

協力機関：(英文) Yonsei University  
(和文) 延世大学校

(2) 国名：フィリピン

拠点機関：(英文) University of the Philippines  
(和文) フィリピン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)： School of Economics ・ Professor ・ Maria Socorro G. BAUTISTA

(3) 国名：タイ

拠点機関：(英文) Thammasat University  
(和文) タマサート大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名)： Faculty of Economics ・ Dean ・ Bhanupong NIDHIPRABHA

## 5. 全期間を通じた研究交流目標

近年世界経済におけるアジア経済のプレゼンスが急速に高まり、アジア経済圏の金融・資本市場に関する研究の重要性はますます高まっている。その一方で、国際金融市場は 2008 年のリーマン・ショックや 2010-11 年の欧州の債務危機など深刻な金融危機をたびたび経験し、ますます不安定性を高めている。そうした中、アジア経済でどのような金融市場を構築していくかは、東アジア経済が今後も安定的な経済成長を実現していくうえでは喫緊の課題であり、当事者である国々のトップクラスの研究者が集まってこの問題を正面から取り扱う学術研究の重要性は極めて大きい。欧米でも国際金融市場の制度設計に関する研究は盛んに行われているが、アジアの視点から金融市場を正面から取り扱った研究は少なく、本研究交流課題は先端性がある。

研究交流課題に参加する研究者メンバーは、いずれも関連分野でこれまで数多くの重要な研究成果を残してきた研究者であり、個々の研究としてはこれまでに十分な蓄積がある。また、日本側コーディネーターがセンター長を務める日本経済国際共同研究センター (CIRJE) は、これまで関連分野の研究者と研究交流に関する準備を何年にもわたって積み重ねてきた。今後は、これら個々の研究者の蓄積と CIRJE の研究交流のための準備状況を踏まえ、交流期間を通じて新たな研究交流を発展させるべく、有益な東アジア域内の研究交流ネットワークを構築することが目指していく。とくに、各研究グループに各大学の若手研究者を数多く加えることで、東アジアにおける関連分野の研究の底上げを行い、今後のさらなる研究の発展を目指すこととする。研究テーマは、政策的にも重要であるため、各研究メンバーは母国あるいは国際機関で、政策当局者に対して積極的な政策提言が行わ

れることも期待される。

## 6. 前年度までの研究交流活動による目標達成状況

平成 24 年度開始であるが、開始前までの準備状況は以下の通りである。

日本側コーディネーターがセンター長を務めてきた日本経済国際共同研究センター（CIRJE）は、日本経済やその関連分野の国際的な研究交流を提供する場として、これまで多数の国際会議を主催または共催してきた実績がある。平成 24 年度から開始される本拠点形成事業との関連では、以下の 2 つの国際的研究交流実績が核となる。

まず第 1 は、ソウル大学校経済研究所（Institute of Economic Research）と 2004 年以来毎年開催している共同コンファレンスを通じた研究交流である。この研究交流は、テーマを狭い意味での金融に限定せず、バックグラウンドとなる理論研究やその応用など幅広い分野をテーマとして、日韓のその分野での専門家が忌憚なく研究発表を行い、コメントを行う場となっている。発表される論文も、完成版というよりも研究途上の段階であえて発表してもらい、今後の改善に役立てるように工夫している。特に、若手研究者の野心的だが未完成な研究の発表を歓迎することで、日韓の若手研究者の研究レベルの底上げにつながっている。

第 2 は、フィリピンのマニラに拠点を置くアジア開発銀行での研究交流である。こちらの研究交流は、テーマをアジアのマクロ経済・金融市場およびその関連分野に限定し、その分野を専門とするフィリピン、タイ、日本、韓国などの研究者が、アジア地域のマクロ経済や金融市場が抱える諸問題を深く掘り下げて探求していく場を提供している。議論の土台となる発表論文もこの分野の専門家が中心だが、研究途上の段階であえて発表してもらい、今後の改善に役立てるように工夫している点は、第 1 の研究交流実績と同じである。特に、若手研究者の野心的だが未完成な研究の発表を歓迎することで、アジア地域の若手研究者のマクロ・金融分野における研究レベルの底上げにつながっている。

## 7. 平成 24 年度研究交流目標

世界経済におけるアジア経済およびアジア企業の重要性が急速に高まるなか、アジア経済圏の金融・資本市場に関する研究の重要性はますます高まっている。そうしたアジア地域の金融システムのデザインや政策提言、および革新的な資金運用・資金調達・リスク管理手法に関する研究が、本研究交流事業の最も重要な研究テーマになる。成長が著しいアジア経済でどのような金融市場を構築していくかは、東アジア経済が今後も安定的な経済成長を実現していくうえでは喫緊の課題である。平成 24 年度は、その実現に向けて当事者である日本、韓国、フィリピン、タイのトップクラスの研究者が研究協力体制の構築し、研究の基礎固めを開始する。欧米でも国際金融市場の制度設計に関する研究は盛んに行われているが、アジアの視点から金融市場を正面から取り扱った研究は少なく、その意味でも本研究交流事業は先端性がある。

研究協力体制の構築に際しては、日本、韓国、フィリピン、タイの大学院生や各大学（各国の研究拠点となる大学だけでなく、各国の他大学・他機関も含む）の若手教員も積極的に加わってもらう予定である。具体的には、各分野の専門家を内外から招いて若手研究者向けのレクチャー・シリーズを開催し、研究を行う上でどのようなテーマが問題となっているのかを説明してもらうと同時に、適宜個別指導もお願いする。潜在的に優秀な大学院生や若手教員であっても、適切な研究テーマを見つけるのに苦労することが多く、本研究交流事業はそのような若手研究者に絶好の研究テーマを提供する機会を増やすものと期待される。なお、各国の若手研究者が一か所に一同に集まることは費用もかかり困難であるため、できるだけインターネット等を利用してコストの節約を図る。特に、日本と韓国との間に関しては、インターネット回線を使って相手校の講義を自校に居ながらリアルタイムで聴講できる授業システムがあるため、必要に応じて利用し、相互交流を図る。

平成 24 年度は初年度にあたるため、レクチャー・シリーズや個別指導を通じた基礎固めが研究の中心となるが、一定の成果が出た研究者に関してはセミナー等でも報告してもらう予定である。また、さらに進んだ成果が生まれた研究者については、国際会議で本研究プロジェクトの特別セッションを適宜オーガナイズするなどして報告してもらい、内外の専門家からのコメントをもらう予定である。

## 8. 平成24年度研究交流計画状況

### 8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

| 整理番号  | R-1   | 研究開始年度        | 平成24年度        | 研究終了年度      | 平成26年度         |
|---|---|---------------|---------------|-------------|----------------|
| 研究課題名                                       | (和文) アジアの経済発展に関する研究<br>(英文) Studies on Economic Development of Asia |               |               |             |                |
| 日本側代表者<br>氏名・所属・職                           | (和文) 福田慎一<br>(英文) Shin-ichi Fukuda                                  |               |               |             |                |
| 相手国側代表者<br>氏名・所属・職                          | (英文) Doo Won Lee・Economics Faculty, Yonsei University・Professor     |               |               |             |                |
| 交流予定人数<br>(※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。) | ① 相手国との交流   |               |               |             |                |
|   | 派遣先   | 日本<br>〈人/人日〉  | 韓国<br>〈人/人日〉  | 計<br>〈人/人日〉 |                |
|   | 派遣元   |               |               |             |                |
|   | 日本<br>〈人/人日〉  |               | 5/18<br>(2/8) |             | 5/18<br>(2/8)  |
|   | 韓国<br>〈人/人日〉  | 1/4<br>(1/4)  |               |             | 1/4<br>(1/4)   |
|   | タイ<br>〈人/人日〉  | 1/3           |               |             | 1/3            |
|   | バングラデシュ<br>(日本側)<br>〈人/人日〉  | 1/30          |               |             | 1/30           |
|   | 米国(日本側)<br>〈人/人日〉   | 1/10          |               |             | 1/10           |
|   | 合計<br>〈人/人日〉  | 4/47<br>(1/4) | 5/18<br>(2/8) |             | 9/65<br>(3/12) |
|   | ② 国内での交流 5/15 人/人日  |               |               |             |                |
| 日本側参加者数                                     | 20名 (12-1 日本側参加研究者リストを参照)   |               |               |             |                |
| (韓国)側参加者数                                   | 6名 (12-2 相手国(韓国)側参加研究者リストを参照)                                       |               |               |             |                |
| (タイ)側参加者数                                   | 1名 (12-4 相手国(タイ)側参加研究者リストを参照)                                       |               |               |             |                |

|  |  |
|--|--|
| <p>24年度の<br/>研究交流活動<br/>計画</p>                         | <p>コーディネーターの福田が、韓国 Yonsei University の Doo Won Lee 教授らと協力して、アジアの経済発展に関する研究交流を、日本および韓国の若手研究者を交えて行う。24年度の研究交流は、お互いに現地を訪問することで交流を深めるだけでなく、インターネット回線を使った授業システムの形式で両国の大学院生が自由に受講できる工夫もする予定である。また、24年度はタイ・タマサート大学の <b>Bhanupong Nidhiprabha</b> 学部長も、タイの経験を日本の若手研究者向けに講義する予定である。</p> |
| <p>24年度の<br/>研究交流活動<br/>から得られる<br/>ことが期待さ<br/>れる成果</p> | <p>アジアの経済発展に関する研究交流を、インターネット回線を使った授業システムを活用することで活発に行うことによって、日本および韓国の若手研究者が各国の経験に関する自由な意見交換をすることが期待できる。また、若手研究者が現地に実際に行って交流を深めることも有益であると考えられる。</p>  |

|   |   |              |              |                 |             |
|---|---|--------------|--------------|-----------------|-------------|
| 整理番号  | R-2   | 研究開始年度       | 平成 24 年度     | 研究終了年度          | 平成 26 年度    |
| 研究課題名                                       | (和文) アジアの金融システムに関する研究<br>(英文) Studies on Asian Financial Markets          |              |              |                 |             |
| 日本側代表者<br>氏名・所属・職                           | (和文) 福田慎一<br>(英文) Shin-ichi Fukuda  |              |              |                 |             |
| 相手国側代表者<br>氏名・所属・職                          | (英文) Bhanupong Nidhiprabha・Thammasat University Faculty of Economics・Dean |              |              |                 |             |
| 交流予定人数<br>(※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。) | ① 相手国との交流   |              |              |                 |             |
|   | 派遣先<br>派遣元  | 日本<br>〈人/人日〉 | タイ<br>〈人/人日〉 | フィリピン<br>〈人/人日〉 | 計<br>〈人/人日〉 |
|   | 日本<br>〈人/人日〉  |              | 1/4          | 1/4             | 2/8         |
|   | タイ<br>〈人/人日〉  | 2/8          |              |                 | 2/8         |
|   | フィリピン<br>〈人/人日〉   | 4/16         |              |                 | 4/16        |
|   | 合計<br>〈人/人日〉  | 6/24         | 1/4          | 1/4             | 8/32        |
|   | ② 国内での交流 5/15 人/人日  |              |              |                 |             |
| 日本側参加者数                                     |   |              |              |                 |             |
| 17 名  | (12-1 日本側参加研究者リストを参照)   |              |              |                 |             |
| (韓国) 側参加者数                                  |   |              |              |                 |             |
| 2 名   | (12-2 相手国 (韓国) 側参加研究者リストを参照)  |              |              |                 |             |
| (フィリピン) 側参加者数                               |   |              |              |                 |             |
| 9 名   | (12-3 相手国 (フィリピン) 側参加研究者リストを参照)   |              |              |                 |             |
| (タイ) 側参加者数                                  |   |              |              |                 |             |
| 5 名   | (12-4 相手国 (タイ) 側参加研究者リストを参照)  |              |              |                 |             |

|  |   |
|--|---|
| <p>24年度の<br/>研究交流活動<br/>計画</p>                         | <p>コーディネーターの福田が、タマサート大学の Bhanupong Nidhiprabha 学部長やフィリピン大学 Maria Socorro G. Bautista 教授らと協力して、アジアの金融システムに関する研究交流を、日本、タイ、フィリピン、韓国の若手研究者を交えて行う。24年度の研究交流は、福田が現地を訪問することで今後の交流スケジュールを具体的に計画すると同時に、タイやフィリピンの若手研究者を東京に招聘し、日本の若手研究者向けの研究交流をしてもらう予定である。</p> |
| <p>24年度の<br/>研究交流活動<br/>から得られる<br/>ことが期待さ<br/>れる成果</p> | <p>アジアの金融システムに関する研究交流を、日本、タイ、フィリピン、韓国の若手研究者を中心に活発に行うことで、最新の研究に関する自由な意見交換が期待できる。また、タイやフィリピンの若手研究者を東京に招聘し、交流を深めることも有益であると考えられる。</p>   |



## 8-2 セミナー

—実施するセミナーごとに作成してください。—

|  |   |
|--|---|
| 整理番号                                   | S-1   |
| セミナー名                                  | (和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「日韓の経済政策の課題」<br>(英文) JSPS Core-to-Core Program “Issues on Economic Policies in Janan and Korea“ |
| 開催期間                                   | 平成 24 年 11 月 16 日 ～ 平成 24 年 11 月 16 日 (1 日間)  |
| 開催地 (国名、都市名、会場名)                       | (和文) 韓国・ソウル・ソウル国立大学校<br>(英文) Korea, Seoul, Seoul National University  |
| 日本側開催責任者<br>氏名・所属・職                    | (和文) 福田慎一・東京大学・教授<br>(英文) Shin-ichi Fukuda, University of Tokyo, Professor  |
| 相手国側開催責任者<br>氏名・所属・職<br>(※日本以外での開催の場合) | (英文) Chulhee Lee・Seoul National University, Department of Economics・Professor                                       |

### 参加者数

| 派遣先<br>派遣元   | セミナー開催国<br>( 大韓民国 ) |      |
|--------------|---------------------|------|
| 日本<br>〈人/人日〉 | A.                  | 3/9  |
|              | B.                  |      |
|              | C.                  | 2/6  |
| 韓国<br>〈人/人日〉 | A.                  |      |
|              | B.                  |      |
|              | C.                  | 3/9  |
| 合計<br>〈人/人日〉 | A.                  | 3/9  |
|              | B.                  |      |
|              | C.                  | 5/15 |

A. セミナー経費から旅費を負担

B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担

C. 本事業経費から旅費を負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

|                      |   |                |                              |
|----------------------|---|----------------|------------------------------|
| セミナー開催の目的            | 本セミナーは東京大学とソウル国立大学校が毎年実施しているコンファレンス・シリーズであり、平成 24 年度はソウル国立大学校で開催される。日韓およびその関係国の経済政策をめぐる諸問題に関する最近の研究成果を報告し、討論を行う。  |                |                              |
| 期待される成果              | 若手研究者を交えて、最近の研究成果を報告・討論を行うことによって、研究成果のメリット・デメリットをお互いに確認することが可能になり、より優れた研究へとつなげることが期待できる。なお、本年度は事業の初年度であったため準備が間に合わなかったが、来年度以降はタイおよびフィリピンの研究者にも参加してもらう予定である。 |                |                              |
| セミナーの運営組織            | 平成 24 年度はソウル国立大学校が運営する。日本側の参加者の旅費の一部以外は、すべてソウル国立大学校が費用を負担する。なお、平成 25 年度は東京大学が運営する予定である。   |                |                              |
| 開催経費<br>分担内容<br>と概算額 | 日本側   | 内容 外国旅費        | 金額 360,000 円<br>合計 360,000 円 |
|                      | (韓国) 側  | 内容 会議費<br>国内旅費 |                              |

|  |  |
|--|--|
| 整理番号                                   | S-2  |
| セミナー名                                  | (和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「東アジアの金融課題」<br>(英文) JSPS Core-to-Core Program “Topics of Financial Markets in East Asia“ |
| 開催期間                                   | 平成 24 年 6 月 28 日 ~ 平成 24 年 6 月 29 日 (2日間)  |
| 開催地(国名、都市名、会場名)                        | (和文) シンガポール、シンガポール、南洋理工大学<br>(英文) Singapore, Singapore, Nanyang Technological University                     |
| 日本側開催責任者<br>氏名・所属・職                    | (和文) 福田慎一・東京大学・教授<br>(英文) Shin-ichi Fukuda, University of Tokyo, Professor                                   |
| 相手国側開催責任者<br>氏名・所属・職<br>(※日本以外での開催の場合) | (英文) Euston Quah, Nanyang Technological University, Professor  |

#### 参加者数

| 派遣先<br>派遣元                | セミナー開催国<br>( シンガポール ) |      |
|---------------------------|-----------------------|------|
|                           | A.                    |      |
| 日本<br>〈人/人日〉              | A.                    | 5/18 |
|                           | B.                    |      |
|                           | C.                    |      |
| 韓国<br>〈人/人日〉              | A.                    |      |
|                           | B.                    |      |
|                           | C.                    | 4/16 |
| シンガポール<br>(タイ側)<br>〈人/人日〉 | A.                    |      |
|                           | B.                    |      |
|                           | C.                    | 1/2  |
| 合計<br>〈人/人日〉              | A.                    | 5/18 |
|                           | B.                    |      |
|                           | C.                    | 5/18 |

A. セミナー経費から旅費を負担

B. 共同研究・研究者交流から旅費を負担

C. 本事業経費から旅費を負担しない (参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。)

|                      |   |       |                |
|----------------------|---|-------|----------------|
| セミナー開催の目的            | 平成 24 年 6 月 28 日と 6 月 29 日にシンガポールの <b>Nanyang Technological University</b> で、アジア・太平洋経済に関するセミナーを、APEA コンファレンスの分科会として開催し、関係者と最近の研究成果を報告し、討論を行う。               |       |                |
| 期待される成果              | 若手研究者を交えて、最近の研究成果を報告・討論を行うことによって、研究成果のメリット・デメリットをお互いに確認することが可能になり、より優れた研究へとつなげることが期待できる。なお、本年度は事業の初年度であったため準備が間に合わなかったが、来年度以降はタイおよびフィリピンの研究者にも参加してもらう予定である。 |       |                |
| セミナーの運営組織            | 平成 24 年度は <b>Nanyang Technological University</b> に運営を委託する。委託費は、参加者が運営者に参加費を負担することでまかなう。日本側の参加者の旅費および大会参加費の支払い以外は、日本側の負担はなし。なお、平成 25 年度は日本で開催する予定である。       |       |                |
| 開催経費<br>分担内容<br>と概算額 | 日本側   | 内容    | 金額             |
|                      |   | 外国旅費  | 1,000,000 円    |
|                      |   | 大会参加費 | 100,000 円      |
|                      |   |       | 合計 1,100,000 円 |
|                      | (韓国) 側  | 内容    |                |
|                      |   | 会議費   |                |
|                      |   | 外国旅費  |                |

### 8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

#### ① 相手国との交流

| 派遣先<br>派遣元   | 日本<br>〈人／人日〉 | 英国<br>〈人／人日〉 | 計<br>〈人／人日〉 |
|--------------|--------------|--------------|-------------|
| 日本<br>〈人／人日〉 |              | 1/5          | 1/5         |
| 〈人／人日〉       |              |              |             |
| 〈人／人日〉       |              |              |             |
| 合計<br>〈人／人日〉 |              | 1/5          | 1/5         |

#### ② 国内での交流 人／人日

| 所属・職名<br>派遣者名 | 派遣・受入先<br>(国・都市・機関)                               | 派遣時期           | 用務・目的等  |
|---------------|---|----------------|---|
| 東京大学・教授・福田慎一  | 英国・ロンドン・Financial Engineering and Banking Society | 平成24年6月6日から5日間 | Financial Engineering and Banking Societyのメンバーに本事業の共同研究(R-2)の計画および成果のレビューを受けるため |

## 9. 平成24年度研究交流計画総人数・人日数

### 9-1 相手国との交流計画

| 派遣先<br>派遣元        | 日本<br>〈人/人日〉   | 韓国<br>〈人/人日〉   | フィリピン<br>〈人/人日〉 | タイ<br>〈人/人日〉 | シンガポール<br>〈人/人日〉 | 英国<br>〈人/人日〉 | 合計<br>〈人/人日〉     |
|-------------------|----------------|----------------|-----------------|--------------|------------------|--------------|------------------|
| 日本<br>〈人/人日〉      |                | 8/27<br>(4/14) | 1/4             | 1/4          | 5/18             | 1/5          | 16/58<br>(4/14)  |
| 韓国<br>〈人/人日〉      | 1/4<br>(1/4)   |                |                 |              | (4/16)           |              | 1/4<br>(5/20)    |
| フィリピン<br>〈人/人日〉   | 4/16           |                |                 |              |                  |              | 4/16             |
| タイ<br>〈人/人日〉      | 3/11           |                |                 |              |                  |              | 3/11             |
| バングラデシュ<br>〈人/人日〉 | 1/30           |                |                 |              |                  |              | 1/30             |
| 米国(日本側)<br>〈人/人日〉 | 1/10           |                |                 |              |                  |              | 1/10             |
| 合計<br>〈人/人日〉      | 10/71<br>(1/4) | 8/27<br>(4/14) | 1/4             | 1/4          | 5/18<br>(4/16)   | 1/5          | 26/129<br>(9/34) |

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流する人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は( )をのぞいた人数・人日数としてください。)

### 9-2 国内での交流計画

|              |
|--------------|
| 10/30 〈人/人日〉 |
|--------------|

## 10. 平成24年度経費使用見込み額

(単位 円)

|        | 経費内訳           | 金額        | 備考                                       |
|--------|----------------|-----------|--|
| 研究交流経費 | 国内旅費           | 800,000   | 国内旅費、外国旅費の合計は、研究交流経費の50%以上であること。         |
|        | 外国旅費           | 4,800,000 |  |
|        | 謝金             | 400,000   |  |
|        | 備品・消耗品購入費      | 20,000    |  |
|        | その他経費          | 300,000   |  |
|        | 外国旅費・謝金等に係る消費税 |           |  |
|        | 計              | 6,320,000 | 研究交流経費配分額以内であること                         |
| 委託手数料  |                | 632,000   | 研究交流経費の10%を上限とし、必要な額であること。また、消費税額は内額とする。 |
| 合計     |                | 6,952,000 |  |

## 11. 四半期毎の経費使用見込み額及び交流計画

|       | 経費使用見込み額 (円) | 交流計画人数<人/人日> |
|-------|--------------|--------------|
| 第1四半期 | 2,000,000    | 15/76        |
| 第2四半期 | 1,500,000    | 10/24        |
| 第3四半期 | 1,500,000    | 6/30         |
| 第4四半期 | 1,320,000    | 5/29         |
| 合計    | 6,320,000    | 36/159       |